

令和7年度

板野東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①自ら学び、行動し、自分の力を伸ばそうとする子どもの育成
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実

校長

三原 善仁

学力向上推進員

市川 麻美

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている児童が多い。 ●学力差が大きい。全学年での既習事項が定着していない児童が一定数いる。	・基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分の力で問題を解決することができる。 ・国語及び算数において、目標とする単元テストの得点を超える児童が8割以上となる。(低学年85点、中学年80点、高学年80点)	・生き生き学習の時間に、全校一斉に漢字の学習・計算の練習に取り組む。 ・小テストやドリルを繰り返し行うことで、全児童の基礎学力の定着を図る。 ・算数で習熟度別指導や複数教員での指導など、個に応じた指導を行う。		・生き生き学習の時間には、全校一斉に漢字や計算の学習に取り組むことができた。 ・復習や小テストを実施することはできたが、基礎学力が定着していない児童もいる。 ・高学年では習熟度別指導、下学年では複数教員での指導を行うことで個別指導を行った。	・同じ問題を繰り返し行い、定着を図る。 ・読解問題や文章問題を解く時間を設ける。 ・語句の意味を調べる機会を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○場に応じた声や言葉遣いを意識して発表できる児童が増えている。 ●自分の考えを文章にして表すことに課題がある。	・語彙力を増やして自分の気持ちや考えを話したり、書いたりすることができる。	・辞典の活用や語彙力を増やすドリル、視写等を授業に取り入れる。 ・覚えた語句を使って日記や作文を書く機会を設定する。 ・話型を系統立てて全校で統一し、実践する。 ・ソーシャルスキルトレーニングにより、コミュニケーションスキルを向上させる。		・日記や感想文を継続して書く機会をとることで、文章を書ける児童が前より増えた。 ・視写は生き生き学習の時間に実施することができたが、辞典の活用はあまりできなかった。 ・ソーシャルスキルトレーニングはあまり実施できていないクラスもあった。	・授業で習った語句を使って短文作りを行う。 ・気持ちや考えを表す表現を含んだ文章を視写に取り入れる。 ・道徳の時間を使ってソーシャルスキルトレーニングに取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ICTの活用により、意欲的に学習に取り組むことができている。 ●学習習慣が身に付いておらず、粘り強く学習に取り組むことができない児童がいる。	・生活や学習の決まりを守って落ち着いた生活し、望ましい学習習慣を身に付ける。	・朝の全校一斉読書や読み聞かせを実施し、落ち着いて学習や生活に取り組めるようにする。 ・学習を振り返り、次時の学習のめあてをもたせる。 ・生活習慣チェックシートを活用することで、児童の実態を把握し、家庭と連携しながら指導する。 ・できたことをほめる機会を多くする。		・朝読を全校で統一して実施し、習慣づけることができた。 ・授業の振り返りはあまり書かせることができなかった。 ・今年度は生活習慣シートがPBSに代替になったため、児童の実態把握は十分できていない。 ・PBSで目標を達成できた時など、褒める機会が増えた。	・きまりの確認やPBSの実施を継続し、望ましい学習習慣の定着を図る。 ・タブレットを使った活動を増やすことで、学習意欲の向上を図る。 ・授業改善を行い、振り返りの時間を確保する。書かせることが難しい時は、発表する機会を設ける。